

# ZOOM UP

この人に聞く

## 八木 陽一郎氏

(香川大大学院地域  
マネジメント研究科准教授)

香川大大学院地域マネジメント研究科は、社会的問題の解決のために創業を志す社会起業家(ソーシャル・アントレプレナー)を教育する「実践型社会起業家論」を、九日に開講する。担当する八木陽一郎准教授(37)に、講座の狙いを聞いた。(聞き手・鞆哲郎)



「地域活性化には社会起業家が必要」と話す八木准教授(香川大)

### Theme 「実践型起業家論」を開講

# 社会貢献できる経済人を育成

―開講の背景を。

八木准教授 地域の経済的活性化には、有力な企業、産業が生まれることや公共事業などが考えられるが、今はどちらも難しい。景気や財政の厳しい時代を迎え、「こうしたい」という思いを形にするには市民力のようなものを活用する必要がある。そのためには社会起業家が必要だ。

―NPOやボランティア団体も社会的問題の解決に取り組んでいる。八木 資金不足などで、市民力の活用がうまくいっていないケースが

多い。能力のある人材をが反響は。

八木 受講者は約七十人。学生が二十二人で、外部聴講者が五十人近くになる。講義を離れて意見を交わしたり、自分のアイデアを発表して仲間を捜してもうため、講座の中だけのSNS(ソーシャル・ネットワーク)を構築するつもり。社会的問題の解決には、多様な視点があった方がいい。

―社会起業家の育成に向けた講義内容を。八木 実践的な内容を大事にしている。資金をいかに獲得するかとか。お金のことをきちつとできないと持続的に活動できない。その後、具体的なビジネスプランを徹底的に指導して、最後はそれを発表してもらう。―受講定員は五十人だ

専門家の力を借りた方がいいと考えた。日本財団の助成を得て、各分野の専門家の講師をそろえることができた。会場は、

地域活性化のために市民が学ぼうという趣旨に賛同していたら丸亀町から無償で借りられる。―人材が地域活性化に貢献できるまでには時間が必要だ。

八木 学びの場を早く立ち上げるには、多くの

八木 人材を育てて、人のネットワークをつくる作業だけに、まずは土壌を整える感じ。二年三年とこの授業を続けていくと、すごく大きな実を結ぶと思っている。